



大地申第18号

「2026年度総合車両センター業務量について」

交渉開催！

1. 品質管理科応急処置当番業務について成果と課題を明らかにすること。また、車両センターを経験した社員が減少してきているため、車両構造や人身事故対応などの教育を実施し、組合員が安心して業務に従事できる体制を構築すること。

組 合	会 社
・応急処置当番の成果は？	・社員の活躍フィールド拡大と、多能工化 ・活車状態の車両の対応
・課題はあるか？	・家庭環境も配慮しながらとなるため、泊まり勤務であることから全員（所内の）が出来ない ・担当する回数はひと月あたりにばらつきが発生する
・教育については？ ・大規模障害も発生している中で不安な声が出ている ・対応できる業務にばらつきが出ている ・教育の内容は過去の事象を用いて行うことや、既存の方からの意見を基に行うべきだ	・新規の方には小山車セで実施 ・既存の方には出来ていないのが現状 ・教育は可能な限りやるべき ・四半期ごとに計画していく ・今ある声を尊重するべきではある
・会社としてどこを目指していくのか ・数を増やせば比例して機会が減り技術は上がらない ・回数の目安はあるのか	・活躍フィールド拡大と多能工化 ・今後はより少ない人数でやっていかなければならない ・月に2～3回が目安になる

2. 「ミライの車両サービス&エンジニアリング構創」の今後について明らかにすること。また、実行委員会を設置し議論してきた経緯から前広に情報を共有し、現場社員が参画することで働きやすい職場を目指すこと。

組 合	会 社
・現段階で明らかにできるものはあるか？	・明らかにできるものは無い ・本社が大枠を検討している
・年初の所長あいさつで触れられている ・期待している社員も多くいる。進捗はしているのか ・社員周知は考えているのか	・所長あいさつで触れたのは聞いている ・生歩かもしれないが進んでいる ・現時点では示せるものはない
・実行委員会が開催されていない ・秋の面談でS&E委員会の参加を聞かれるが、参加希望するのに開催もされない ・現場の意見を取り入れていくべきだ	・これまで意見を集約してきた ・やり方は約束できないが意見は吸い上げるべきである ・本社に伝えるタイミングがあれば伝えていく ・現場の声をないがしろにしているわけではない

3. 2026年度における委託割合を明らかにすること。また、一車完結における成果と課題、要員に関する中長期的な業務運営について明らかにすること。

組 合	会 社
・来年度の委託割合は？ ・その理由は？	・3:7 の計画している ・多能工化とグループ会社との協議で決定していく
・一車完結の習熟を高めるために委託割合を変更してきたが、習熟度は上がっているのか？ ・人が足りない。習熟度が高い社員が居なくなっている ・具体的な策を立てるべきである	・多能工化の教育が順調に進んでいない ・異動が原因一つではある ・要員は今の業務量で足りていると考える ・入場車両の平準化で前倒しなどは調整出来るかと思う
・実行計画の一環で他科からの応援が計画されている ・要員の補填にはいけない。張り付けるべきだ ・主たる業務に影響が出ないようにしていただきたい	・把握していないが、あくまで多能工と考える ・必要な要員はコミュニケーションを取っていく ・お互いの同意は必要。納得感が無ければいけない



大地申第18号

「2026年度総合車両センター業務量について」

交渉開催！

**4. 昨年実施された「総合車両センター業務体制の見直しについて」における成果と課題を明らかにすること。
また、鉄工出張工事に関する検証を行うことで持続的に運用が可能な業務体制を構築し鉄工技術者育成の観点から増員を実施すること。**

組 合	会 社
・総括班長は二つの班を纏める役割となったが、実態として掴んでいるものはあるか？ ・鉄工は組持ち、SLは総括班長となっているのが現状 ・改善していくべきものは改善するべきである	・業務が異なることから共通化が難しい ・振り返り会議等で出た意見は改善していくべき 首都圏本部としても職場に入っていく
・統合によって成果はあるか？	・一つになることで応援体制が容易になった
・鉄工業務の統合後、TK出張・事故対応などが多い状況になっている中で要員が足りていない ・鉄工班が不在で対応できないとのことで、台車鉄工を2～3日待ったこともあった	・踏切事故、架線の事故対応でイレギュラーな対応が増えているが、定常ではなく一過性のもの。そこをMAXの要員として配置は難しい ・定常的な業務としては要員は足りている
・TKの直営とOMの直営で差がある。OMではパンタグラフの塗装剥離は委託している ・TKとの差を精査すれば鉄工班の負担軽減につながる。OMの委託作業に合わせるべきだ	・必要であれば委託するべきだがOMとの議論になる ・TKとOMの違いは統合するべきだと考えるが、対応できるかは現状を確認してとなる ・標準化という意味ではやるべきだと考える

5. 昨年発生した空気バネ落下事故の対策の具体的進捗と安全な作業体制確立に向けた今後の見通しを明らかにすること。また、指定保全業務における台車検修作業の環境整備を実施すること。

組 合	会 社
・これまで対策してきたハード面、ソフト面の内容は？	・レーンで吊って作業しないような置台と、回転しないような治具に交換してきた ・ソフト面では、マニュアルの整備と実習生の数の見直し
・作業環境については対策されていない ・台車プール場は作業場なのか ・制輪子交換は地面に寝そべて作業をしているが正しい姿勢ではない ・設備が整った場所でやることでケガのリスクも減り、品質も上がる ・傷害事故に関しては交渉も実施してきた中で「必要な設備に関しては現場で要求してほしい」と言われ、現場で要求し続けてきたが進んでいない ・今まで何をしてきたのか。また発生してしまう！ ・16番線にライトクレーンの設置を求める	・ワーキンググループを立ち上げ、エンジンクレーンの代替えと作業場所を検討中である ・プール場は作業場所と認識している ・平場でやりづらいことは認識している ・今の作業場所よりも良いところを議論していきたい ・必要な設備は要求しながら改良していくべきである ・予算と場所の検討が必要である ・現在の作業環境が決して良いとは言えない ・設備要求に関しては取れるようにしていきたい ・16番線に関してはワーキンググループでも出ていることは承知している
・しっかりと予算を付けていき、作業環境が良くないことを一致しているため安全性を確保するためにも確実に実施していくことを要求する	・ご意見は承る ・作業環境改善は務めであるので確認していく



「2026年度総合車両センター業務量について」 交渉開催！

6. 技術管理室の社員が日中の発生作業を担当していることにより、超勤時間帯で本来業務を実施しなければならない実態がある事から原因を明らかにし改善すること。

組 合	会 社
・技術管理室の実態は掴んでいるか？	・超勤が多いことは認識している ・営業線に直結している業務であることなどが理由である
・技術管理室の社員が日中の臨修対応を行っており、本来業務を超勤時間帯で行わなければならない ・機動班業務を行う人数で足りないため対応しているのが実態だ ・要員に原因があるのではないかと ・解明交渉では「技管がやることはあるべき姿ではない」と回答されてきたが改善されていない	・すべてではないが臨修対応していることは把握している ・過去3ヶ月で技術管理室が対応した業務は把握しており厳しいと言われている ・教育がたまたま重なったことなどが原因である ・色々な要因はあり、東大宮の超勤が多い認識はある ・常態化している超勤は良くない ・実態を把握して改善できる部分は改善していく
・時間外労働が多い理由は何か？ ・超勤時間は？ ・大宮支社は示している。示さなければ議論にならない ・示された時間は管理、一般共に東大宮センターなのか ・数字が根拠となっている。負担軽減のために改善していくべきだ	・臨時修繕が多いこと、機動班に要員を割いていること結果、日中で終わらず超勤で業務しているため ・会社が管理しているため示す考えはない ・2024年度個人最大 439.55時間(管理) 351.33時間(一般) ・その通り ・首都圏本部としても現場に入って行きたいと考えている
・委託も控えている中で改善し負担軽減を今からやるように指導していただきたい	・そこを踏まえて確認していく

7. 大宮総合車両センターをマザーベースとする車両の予備品が不十分であることにより、他の総合車両センターから借用している実態があることから、予備品の確保を行い安定した車両の提供が実施できる体制を構築すること。

組 合	会 社
・予備品を確保するまで優先順位はどのように決定しているのか ・箇所として優先順位を付けているがハードルが高く実現できていない予備品が多い	・箇所から首都圏本部へ上げていただきヒアリングを実施する。その後優先順位を決定し本社へとなる ・高価なものや納期も掛かるものが多い。そのようなことから通りづらいものもある
・E261系は特別な料金を頂いた上で運行しており、故障が原因で運休にならざるを得ないものもある ・E131系に関しても十分に確保できておらず、何年も要求しているが通らない ・マザーベースとして車セから要求される立場であるため対応できるようにするべきだ	・INTEROSは予算が通り確保できるようになった ・非常通報などは引き続き要求を上げていくしかない ・運休を出さないようにするために確保したい考えだが、全てとなると厳しい ・予備品＝固定資産が増え税金が掛かる。バランスを見て計画していく
・予備車の本数も減少している中であるからこそ予備品の確保は重要である	・部品の供給に滞りが無いようにしていきたい

議論内容を組合員と一致し、検証行動を行っていこう！